

玉城中学校 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果概要

2021年5月に行われた全国学力・学習状況調査の結果をまとめました。ここでは、全国や三重県のデータと玉城中のデータを見比べて玉城中学校の生徒の状況について分析しました。この分析は三重県、全国と比較して、国語、数学で問われる学力のどこが強みで、どこが弱みか、また、学習状況調査から見えるよりよい学習習慣について確認してみました。

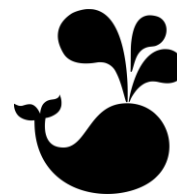
1 教科に関する調査結果



(1) 実施した教科 ① 国語 ② 数学

(2) 本校の結果の概略

本校の平均正答率は、多少の数値の差は見られるものの①国語、②数学ともに、三重県、全国平均と同等でした。



① 国語の平均正答率のカテゴリー（学習指導要領の領域別、評価の観点別、問題形式別）別に見た比較については、「読む」「読む能力」のカテゴリーで下位の差が見られました。「書く」「書く能力」のカテゴリーでは、数値としては上回っているものの、三重県、全国との有意差はありませんでした。

【国語 強み】

- 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。
- 文脈に即して漢字を正しく読む（「詳細」）。

【国語 弱み】

- 文脈の中における語句の意味を理解する
- 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。

国語の結果から、文脈のつかみ、その内容などを的確に読み取れている生徒の割合が低い傾向にあることがわかりました。しかし、「自分の考えを書く」事に関しては比較的正答率が高いことから、自分の考えを表現できる生徒の割合が高くなっていることがうかがえます。文章の内容を掴んだり、他の意見を取り入れたりして自分の思っていることを客観的に表現できる力はとても大切です。今後ともこの力が伸ばせるように電子媒体だけでなく、紙媒体で日本語に触れる機会を多く持つて欲しいと考えます。



② 数学の平均正答率は、領域別の「数と式」、形式別の「記述式」において三重県、全国より上位の差が見られました。あとの項目（全10項目中8項目）については、差はありませんでした。

【数学 強み】

- 「数と式」分野…一次方程式の立式、文字式の加減、扇形の弧の長さの計算ができる。等
- 平行四辺形になるための条件を理解している。
- 錯角が等しくなるための位置関係を理解している。

【数学 弱み】

- 与えられたデータから中央値を求める。
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- 事柄の特徴を数学的に説明することができる。

数学では、「数と式」領域の設問で県や全国より上位の有意差が見られ、基礎的な計算力や公式等を利用する力がついている生徒が比較的多いことがわかりました。また、記述式の問題では県や全国との差はみられたものの、正答率としては40%台と低く、数学的な表現力に課題があります。また、説明する設問では、無回答率が高い傾向が見られました。このことから、データを読み取り、それについての分析を行うことや、的確な用語を用いて説明をする力をつけることが望まれると考えられます。

2 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果

- (1) 質問紙の主な内容 ① 普段の生活習慣に関する質問 ② 学習習慣や地域とのつながりについての質問
③ 教科学習（国語、数学・英語）や学校生活・授業に関する質問
④ コロナ禍による学習への影響 等

(2) 本校の結果から見た強み、弱み

ここでは、調査結果から(1)の①、②、③を中心に本校の強み、弱みを考察します。

- <強み> ○人の役に立つ人間になりたいと思う。
○日本のことを外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。
○数学の授業内容はよく分かる。 等
- <弱み> ●話し合いで問題の解決方法を決めていない。
●国語の授業内容がわからない。
●数学の解き方等をノートに書いてない。
●日常的に英語を使う機会が少ない。
●ゲームの時間が長い。
●(平日、休日とも)学習時間が短い。 等

1) 強みについて

「人に役に立ちたい」という気持ちは、「相手への思いやり」や「社会貢献に寄与したい」という人間性という意味で、今後の生き方に大きく影響すると思います。また、外国の人に自分たちの住む国についての理解を求める姿勢も、国際理解や国際貢献という意味で、未来を生きる子どもたちにとっての大切な資質であると考えられます。さらに、教科に対する理解度が高いという点も、結果として正答率の高さに結びついていると思われます。他にも、今回の調査では差はなかったのですが、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」といった質問項目に対して、90%以上の生徒が肯定的に答えているため、基本的な生活習慣がきちんと守れている生徒が多いことがうかがえました。

2) 弱みについて

「学級の話し合いで解決方法を自分たちで決めている」について県や全国と下位の差があったことに関しては、実際には昨年度からのコロナ禍によるためにそういった時間が取りにくかった要因もあるかと思われます。また、全体的には「国語への苦手意識」がある生徒がいる割合が多いようで、じっくりと文章を読んだり、その意味について考えたりする機会が減っていた可能性があります。数学で直感的にわかることは得意な生徒が多いようですが、解き方等をこまめにとり行ける生徒の割合が低いことから、今後、それがないと対応できない教材内容が増えていくことを踏まえると、やはり、簡単などころからそういった習慣をつけていく必要があると考えます。

時間の使い方については、「ゲームの時間が長い」、逆に「学習時間が短い」ことが鮮明に表れました。これも、コロナ禍による影響がないとは言えませんが、少なくとも「自由な時間をどう過ごすか」を考える力が不足しているのではないかと思われます。ついつい誘惑に流されてしまったり、自分を客観的に見つめたりすることができる生徒の割合が低いことが考えられます。

(3) 学力調査結果と質問紙項目との相関関係から

学力調査の結果と質問紙項目の相関関係を見てみると、国語、数学の結果に関しては「ゲームの時間が短い」「いじめを許さない心が強い」「相手の気持ちを受け止めることができる」「諦めない気持ちが強い」「自分で考えることができる」「見直しや反省ができる」「話し合い活動が上手い」生徒ほど正答率が高いことが分かりました。他にも数学の結果だけから見ると、「生活リズムができてい」「やり遂げる気持ちが強い」「自分の考えを持つ」傾向が強いほど正答率が高い傾向がありました。

<今後の方向性>

この調査は一学期に行われたもので、今の状況は少し違ってきているとは思いますが、学校では、この結果をふまえて今後の指導に活かしていきたいと考えています。学習面では、基礎・基本を大切にしていきたいのはもちろんのこと、「じっくりと取り組む」姿勢を身につけること、「失敗を恐れずに粘り強く取り組む」力を培うための授業や活動を積極的に推進していきたいと思っています。具体的には簡単に達成できる課題をいくつも与えたり、(時間の許す限り)物事を考える時間、課題に取り組む時間を保障したりするようにしたいと考えています。また、「教えられる」ことを中心とした学習場面だけでなく、「自ら考える」「互いの学びや知識・技能を共有する」といった学習を取り入れることで学びの定着や発展につなげ、子どもたちが未来を生きていくために身につける必要がある学習スキル、生活スキルを獲得してほしいと考えています。さらにまた、「有限な」時間の使い方を再確認させ、(ゲームに陥らず)学習時間を確保することを意識する姿勢を身につけていく指導については、学校だけでなく、ご家庭での声掛けをよろしくお願いします。まもなく、3年生は受験という大きな局面を迎えることとなります。そういう意味でも「有効な時間の使い方」について考えることを促したいと思っています。